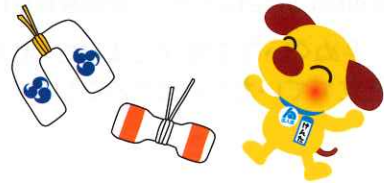


けんたの

「わくわく♪なかむら」

尾張三大奇祭

きねこさ祭



けんたが中村区のわくわく♪を見つけに行く企画第2弾。気持ちよく晴れた北風強めの令和6年2月26日(月)、岩塚町の「きねこさ祭」へ。青年部会の武藤さん(武藤工業株)と小高さん(株イーグル)が祭の役者として登場するみたい。楽しみだな♪



尾張三大奇祭の一つ。名古屋市の無形民俗文化財に指定されています。

役者たちは、みそぎの後の濡れた体をタオルなどは使わずにたき火の炎で乾かします。

【歴史】

祭の起源は平安時代の元慶8年(西暦884年)頃と伝えられています。祭で唱える祭文は、応永32年(西暦1425年)の種おろしの祭文が傳承されています。古い田祭の様子を伝えた民俗学上も貴重な祭です。

【きねこさ祭とは…】

岩塚町七所社の祭礼で、旧暦の1月17日に厄除け・五穀豊穰などを祈念して行われます。「きねこさ祭」の名前は祭具のきね(杵)とこさ(杵からこすり落とした餅の意)に由来するといわれています。

祭の主役の「役者」となる後厄の青年10名と子役2名は、神社内の社務所で三日間身を清め、当日を迎えます。

(1)川祭り

役者たちが庄内川の中に竹を立て、一人が竹を登りその折れた方角で吉凶を占います。

(2)古式行列

古くから伝わる衣装を身にまとった神官・役者・氏子などが参道を練り歩きます。

(3)本祭り・厄除け神事

役者が境内で順に所作を行います。役者が持つ祭具に触れると厄除けになるといわれ、役者は祭具で参拝者を叩くなどして厄を祓います。



川祭りで使う竹の長さは約10メートル。





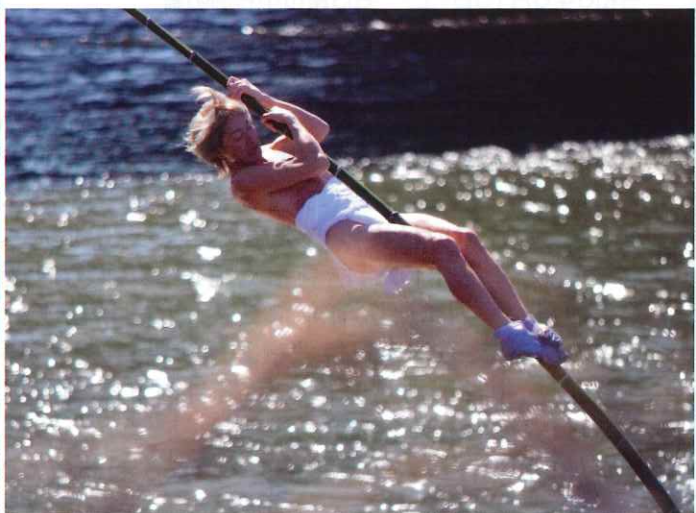
川に竹が立てられて、登る登る。がんばれー! そろそろかな...? ドキドキ。 折れたー!!!



竹はきれいに「南東」の方向に折れました。今年は「吉」となるでしょう。バンザーイ!

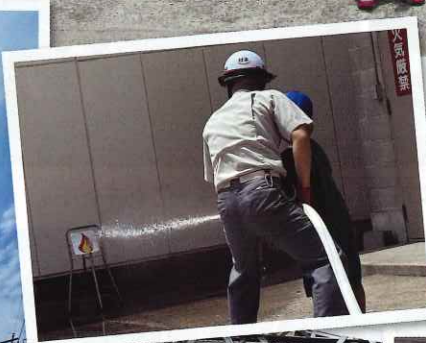
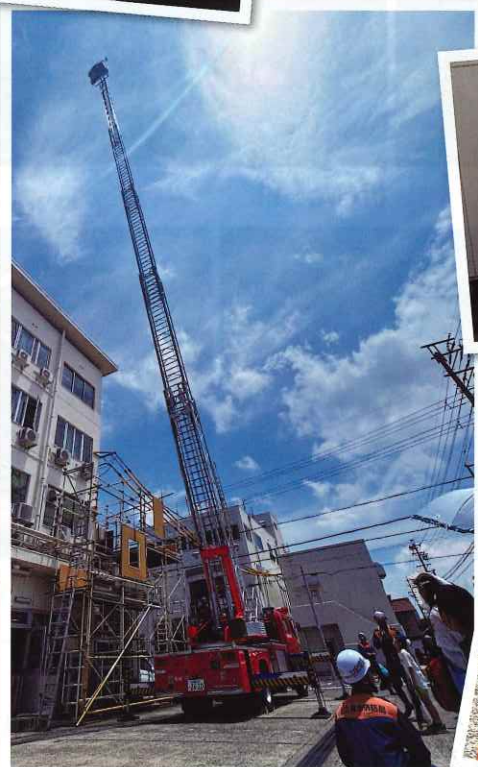


稚児役は赤い羽織を頭から被りお人形を連れています。赤い羽織の下は小高さん。(右)
 笛役の武藤さんは侍烏帽子・高下駄・藁で編んだ肩掛けを身に着け、笛型を手に持ちます。(左)
 各役者の衣装や所作も興味深く、見ごたえがあります。



来年の斎行日は、令和7年2月14日(金)です。

親子消防署見学会



令和6年6月15日(土) 名古屋市中村消防署

今年も、名古屋中村法人会青年部会事業恒例の『夢かなえ隊～親子消防署見学会』を名古屋市
中村消防署にて開催しました。

今回は、中村区内の小学校から親御様も含め93名にご参加いただきました。

3班に分かれ、屋外での体験。消防車の見学から、放水体験、起震車での地震体験等楽しみました。
消防車体験では、実際に梯子を最大に伸ばして「こんなに高いんだあ!」と子供たちの感動を誘いま
した。放水体験では実際の水圧を体感し、子供たちは驚きを感じていました。起震車では震度6を
体験し、今年発生した『能登半島地震』の怖さも実感してもらいました。

その後は屋内に戻り、青年部会スタッフと消防士とのコラボ『租税教室』を実施しました。消防署の
方との絡みで、通常の租税教室より『納税』に対する身近な感覚を持ってもらえたかと思ひます。

最後に、中村消防署長はじめ、署員の方々、並びに多方面の方々のご協力により無事に見学会を
終えられたことに深く感謝いたします。

参加した中村法人会青年部会のみなさま、お疲れさまでした。

青年部会 副部会長 久納 浩嗣